

平成 31 年 1 月

新専門医制度のお知らせ（20）

～「リハビリテーション科領域が定める研修カリキュラム制について」の改訂～

専門医制度委員会 担当副理事長 芳賀信彦
担当理事 浅見豊子

この度、「リハビリテーション科領域が定める研修カリキュラム制について」を改訂しましたので、お知らせいたします。

いわゆるダブルボードによる研修カリキュラム制に関しては、従来、内科、外科、整形外科の専門医既取得者（内科に関しては内科認定医の既取得者も）を対象にしていたが、2019年4月より小児科の専門医既取得者も対象とすることになりました。但し、「リハビリテーション科領域が定める研修カリキュラム制導入に伴う移行措置について」に定められている、2016年4月以降2018年3月までに研修を開始した専門医資格既取得者における移行措置には、小児科専門医を含めませんのでご注意ください。

また今回の改訂で、ダブルボードによる研修カリキュラム制による研修開始時期について、「研修開始時期は、研修プログラム制のように年度初め（4月1日）である必要はなく、年度途中での研修開始を認める。」と明記しましたので、ご確認ください。

なお従来通り、ダブルボードによる研修カリキュラム制による研修を行う場合には、日本専門医機構への届け出は不要ですが、日本リハビリテーション医学会への届け出は必要です。

不明な点がある場合は、メールまたはFAXにて下記までお問い合わせください。回答にお時間を頂く場合がありますので、ご了承ください。なお電話でのご質問には基本的にお答え致しません。

問合せ先：公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 専門医制度委員会

E-mail（新専門医制度専用）：sinseido@jarm.or.jp、 FAX：03-5280-9701

【別紙】 研修カリキュラム等修正点一覧

【修正した書類】

リハビリテーション科専門研修プログラム整備基準

リハビリテーション科専門研修カリキュラム

専攻医研修マニュアル

指導者マニュアル

専攻医研修実績記録

【修正のない書類】

指導医による指導とフィードバックの記録

指導者研修計画（FD）実施記録（2つに分かれていたファイルを1つにまとめました）

【全体に修正した点】

- 1) 「リハ」、「リハビリ」という略語を用いず「リハビリテーション」を用いることとした。
- 2) 「リハビリテーション」という単独の言葉を避け、その表す内容に応じて、「リハビリテーション医学」、「リハビリテーション医療」、「リハビリテーション診療」等の言葉に置き換えた。
- 3) 「リハビリテーション診療」は「リハビリテーション診断」と「リハビリテーション治療」から構成されること、「リハビリテーション診断」の中に、様々な評価を含むこと、を明確にした。
- 4) 「廃用症候群」を全て「不動による合併症（廃用症候群）」に置き換えた。

【その他の修正点】

- 1) 「リハビリテーション科専門研修プログラム整備基準」の項目15に「専門研修期間内に研修カリキュラムに記載されている疾患、病態を全て経験することは出来ない場合、病態別実践リハビリテーション研修会 DVD の視聴と付属の達成テスト等を行うことで、不足している経験を補い、またより深い学習を行う。」とあったが、同 DVD の内容が古くなりつつあること、同様の目的で e-learning を現在準備していることから、「病態別実践リハビリテーション研修会 DVD の視聴と付属の達成テスト等を行うことで」を「e-learning 等を履修することで」に修正した。
- 2) 同様の理由で、「リハビリテーション科専門研修カリキュラム」、「専攻医研修実績記録」において、「病態別実践リハビリテーション DVD 視聴」の項目を削除した。
- 3) 「リハビリテーション科専門研修カリキュラム」と「専攻医研修実績記録」の「V. 倫理・社会など」のシートに、感染管理の記載を追加し、記録を残せるようにした。
- 4) 「専攻医研修マニュアル」の4ページの「3. 申請手続き」の7) を修正し8) を追記した。

修正前：

7) 症例リスト（経験症例100例の一覧表）

修正後：

7) 専攻医研修実績記録

「分野別症例リスト」ほか必要なすべての項目に記入したもの

8) 指導医による指導とフィードバックの記録